

# 適性検査型 I

注 意

- 1 問題は 1 のみで、4 ページにわたって印刷してあります。
- 2 試験時間は四十五分で、終わりは午前九時三十分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受験番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

明法中学校



問題は次のページからです。

次の文章を読み、あとの問題に答えなさい。

(\*印のついている言葉には本文のあとに「注」があります。)

知識をただ覚えておくだけでは、教養・知性にはなりません。頭のどこかに間借り<sup>\*</sup>しているだけです。それをその人なりに血肉化<sup>\*</sup>していくには、「考える」という作業が不可欠です。

「考える」というのは、新しい意味、あるいは因果関係を見つけていくことです。一見するとつながりがないように思えることも、それらを別の文脈や論理の世界に持ち出して丁寧<sup>ていねい</sup>に消化していくと、少しずつつながっていることが見えてくるから不思議です。

しばしば「真理はひとつ」だと言われます。エネルギーはさまざまな法則に基づいている。私たちの心の中で起こっていることも、外で起こっていることも、すべてつながっているかもしれない、ということです。

お父さんとお母さんがケンカをしているのも、学校の授業が面白くないのも、試合でいい成績をあげられないのも、大好きなあの子が僕<sup>ぼく</sup>のほうを見てくれないのも、もしかしたらすべてつながっているのかもしれない。そういうことが見えてきたら、ちよつと面白いと思いませんか？

そういうことが少しでも感じられると、ものの見方も違<sup>ちが</sup>ったもの

になるでしょう。これこそが、教養を身につけるといふことのもうひとつの意味で、それはまた、学ぶことの意味でもあるわけです。

登山で、道なき道を登っていったら、自分のいる場所がわからなくなりますが、ところが、あるところまで来ると、急に見晴らしがよいところに出る。そうすると、「うわあ、こんなきれいなところがあつたのか」と感動すると同時に、自分が今いるところが、別の人たちで見えてくることがあります。

上に行けば行くほど、周りの山や空、遠くにある滝<sup>たき</sup>などが見えてきます。

学ぶというのは、山を少しずつ、少しずつ登っているようなものです。登るにつれて、見える世界が少しずつ大きくなり、広がっていきます。そして、自分が今いる場所が、徐々に<sup>じょじょ</sup>わかってきます。

上まで行けばそういうことがわかるけれども、途中<sup>とちゆう</sup>で周りを見ても木や草しか見えなくて、自分がどこにいるかわからないものです。これは皆<sup>みな</sup>さんが、学んでいる状<sup>じやう</sup>況<sup>きやう</sup>と似ています。

学ぶにつれて、いろいろなことがつながってきて、ものごとを俯瞰<sup>くわん</sup>して見られるようになります、自分の立ち位置、さらには自分が生きていく世界が見えてきます。学ぶということは、山を登ることと同じです。

いろいろな知識がつながってくると、世の中がよく見えてきます。

それまで自分が経験的に知っていたことと、新しく教えてもらったことがつながって、もうひとつ高いレベルで意味を理解できるようになるからです。

そうすると、世界の見え方が変わり始めます。これが、学ぶことの醍醐味です。

今までまったく文字が読めなくて、五〇歳になって、初めて文字を勉強し始めた女性がいました。彼女は、「文字を勉強してから、夕日ってこんなにきれいだったのか、と思えるようになった」と言います。

文字を読めるようになると、知識への水路が広がります。いろいろなことを理解し、それらの知識が繋がってきたことによって、夕日の美しさに改めて気づいた、というのです。つまり、人間の美意識は、知識とその知識への水路を少しでも身につけた自分という存在の喜びにつながっているということです。

また別の、二〇代で初めて文字を勉強した若者は、「今まで平気で蹴とばしていた木の根っこを、蹴とばせなくなった」と言っています。

やはり、文字を学び始めたことで、いろいろなものの命に気づいたのでしょうか。知識への水路を身につけていると、自分の周りのものを粗末にできなくなるようなのです。

学ぶことによって自分たちを支えてくれているものが見えてきて

自分の命とそれらがつながっていることに気づくようになった。そうすると、世界の見え方は、まったく変わってしまうというのです。そういうことがわかると、おそらく学ぶことはどんどん面白くなっていくはずですよ。

人間は自由になるために学ぶ、という話をしましたが、知識を身につけるのは、決して自分のためだけではありません。自分が身につけた知識を、みんなで共有することで、その知識は生きた知識となっていくんです。その知識をみんなで共有し、共に利益を得ていくことは、私たちが生きていく上で、欠かすことのできない知恵だからです。

それは、我らホモ・サピエンスが生き残った理由ともつながってきます。

猿から人間に進化してきた七〇〇万年ほどの間で、いろいろな哺乳類が途中で絶滅しています。現在、歴史人類学者がいろいろな仮説を出していますが、その中で有力なのが七万五〇〇〇年前、今のインドシナ半島でもものすごく大きな火山の爆発があり、その噴煙で地球全体が暗くなった。そのために一挙に寒冷化し、それまで採れていた多くの植物が全滅してしまっただけでなく、そこで生態系が大きく変わったために、ほかの動物や、多くのホモ属が絶滅した。唯一、その状況を切り抜けたのが、ホモ・サピエンスだったという説です。

生き残った理由として考えられているのが、彼らは、「そこはダメだ、あつちへ行ったほうがいい」などと、お互いの利益のために、水が出るところや暖かい住みかを得られるところなどを、教え合っただのではないかということです。そのようなホモ・サピエンスの生息の痕跡が世界のさまざまな場所に拡散しているからです。恐らく、お互いに助け合うことで生命を救い合っただけでしょう。

また、ヒト属は、小さくて弱いから、大きな動物とケンカをしても勝つことができません。それを殺して食べることができたのは、共同する知恵があつたからです。役割を分担し、共同で動物に立ち向かう。耳のいいやつが「あつちにいる！」と発見して仲間に伝えるとき、俊敏なやつが前から攻めて牛を追い込み、腕力の強いやつが捕獲する。そうすれば、大きな獲物でも仕留めることができます。やがて言語が生み出され、それを使ってコミュニケーションをし、共同性を高めていった。そうして、上手に危機を切り抜けることにつながったのです。

共同・協力する力、一緒に困難を乗り越える力というのは、人間が人間として生き延びてきた原動力なのです。これは別の見方をすると、一緒に喜び合える力であり、この力があるからこそ、生きていて楽しいと思えるのです。これがやがては恋愛感情にもつながります。

（『人生を豊かにする学び方』汐見稔幸）

〔注〕

間借り ———— 料金を払って、よその家の部屋を借りること。

血肉化 ———— （知識・思想・技芸などを）自分のものとして取り込むこと。

俯瞰 ———— 高い所から広く見たすこと。  
——— 物事の本当のよさ。深い味わい。

ホモ・サピエンス ———— 動物学から見た現在の人類。  
——— 脊椎動物の一群の総称。温血・胎生・

インドシナ半島 ———— 東南アジアにつき出ている半島。  
——— 火山などがふき出すけむり。

噴煙 ———— 火山などがふき出すけむり。  
——— 一定の地域に生息する生物群と、その生活にかかわる物理的環境をひとまとまりとしてとらえた概念。

生態系 ———— 一定の地域に生息する生物群と、その生活にかかわる物理的環境をひとまとまりとしてとらえた概念。

ホモ属 ———— 哺乳類霊長目ヒト科の属の一つ。  
——— 以前何かがあつたことを示すあと。

痕跡 ———— 以前何かがあつたことを示すあと。  
——— 「ホモ属」と同様。

ヒト属 ———— 「ホモ属」と同様。  
——— 頭のはたらきがよくて、行動がすばしいこと。  
——— コミュニケーション ———— 言葉・文字などによって、たがいに思想

・意思などを伝達・交換こうかんすること。  
物事の活動のもととなる力。

〔問題1〕

「学ぶということは、山に登ることと同じです。」とあるが、どのような点が同じと言えるか、六十字以上七十字以内で説明しなさい。

〔問題2〕

「そうすると、世界の見え方が変わります。」とあるが、どのように変わるといつているか、九十字以上百字以内で答えなさい。

〔問題3〕

筆者は「知識をみんなで共有し、共に利益を得ていくことは、私たちが生きていく上で、欠かすことのできない知恵」と述べているが、筆者がどのように考える根拠こんきょを説明した上で、ここでいう「知識の共有」についてあなたの考えを、自身の経験をまじえて四百字以上四百五十字以内で書きなさい。

なお、次の《注意》に従って書きなさい。

《注意》

段落をかえたときの残りのます目は字数として数えます。

ただし、問題1・問題2は、一ます目から書き、段落をかえてはいけません。

、や。や「なども、それぞれ字数に数えます。

